

Preface

ご入学おめでとうございます。

高等学校に入学し、希望・期待に胸を膨らませていることと思いますが、その一方で、高校生活のことや、勉強のことで不安もあることでしょう。その例としては、内容が高度で進度も速いと聞いている高校の勉強についていけるだろうか、新しい友達はできるだろうか、部活動と勉強の両立ができるだろうかなどです。学校では皆さんがそうした不安を拭い去って、充実した日々を送れるように一時間一時間の授業を大切にしていきます。そして、わかるまで、いろいろな機会に丁寧に指導していきますので、安心して努力を続けてください。この「学習ガイダンス」は、皆さんが学習の海を航海する上での羅針盤となるべきものです。

高校での学習をスムーズに送るために「進路のしおり」とともに、この「学習ガイダンス」を有効に活用し、一日も早く高校生活に慣れ、有意義に毎日を送ってください。

高等学校での学習のポイント

① 科目ごとの学習方法を知る

各科目とも、最初の授業で学習方法の説明があります。日々の授業の目標や進め方、ノートの作り方、予習・復習の仕方をよく理解し、きちんと学習していきましょう。科目によっては分量が多かったり、何科目も重なって時間がかかることもあります。高等学校で学力を向上させるためには、それらを克服することが大切なことです。

② 予習・復習の重要性

高校の学習は中学より一段と難しくなり、授業だけで学習内容を定着させるのは、かなり難しいといっているでしょう。日々の予習と復習が欠かせなくなるのです。予習をして授業を受ける。そして自宅で復習する。予習→授業→復習のサイクルができてこそ、教科内容がしっかりと身につくのです。

まずは、予習はどのようにすればいいのでしょうか。予習では完全に理解する必要はありません。未知の内容を理解しようと努力してみて、「これはわかった」「この部分はわからない」というふうに、明確にすればいいのです。そうすると、授業でどこを注意して聞けばいいのか把握でき、授業にも集中できて、授業がとても充実したものになります。

次は復習です。復習の目的は、学習内容を整理して理解を深めることにあります。授業を受けた後は、頭の中で知識が体系的になっていないことがあります。復習ではそれらをもう一度見直して整理するのです。また、繰り返し練習したり、問題を多く解いたりすることで、どこにでも通用する基礎・基本の学力が定着していきます。

③ 学習時間の確保のために計画を立てる

高校に入ると、通学時間が長くなるなど生活のリズムが変わります、いかに自分の新しい生活のペースを作っていくかが、高校1年生の初めの頃の大きな課題なのです。では、どうすればいいのか？ まず、自分なりの具体的な生活スケジュールを作り実行することです。何時に起きて何時に寝るか、自宅でいつ勉強するかといった原則を決めて、それを実行する。高1の初めの時期にそれが習慣になれば、高校生活はうまく乗り切っていけるでしょう。「継続は力なり」です。確かな生活の過ごし方を続けていけば、すべての面で力がついていきます。

高校は自宅学習の時間が増えるだけでなく、部活や行事があったりで時間の使い方、場面ごとの気持ちの切り替えが大切になります、どれも中途半端にしないためには、気持ちをうまく切り替えて、目の前のことに気持ちを集中して最後までやり遂げるという姿勢が必要です。そうすると生活のすべてに充実感が得られて、毎日が楽しく過ごせるのです。

わからないことは、担任や教科担当の先生に質問してください。勉強などのことで悩みをかかえ込まずに、積極的に相談に行きましょう。校訓「自主自律」の精神を学習面でも大いに発揮して、自ら求めて学習を進めていってください。

Guidance 学習方法

基町高校での学習方法はこれだ

- ポイント1 予習・授業・復習のサイクルを完成させよう
- ポイント2 積極的に授業に参加しよう
- ポイント3 家庭学習の習慣をつけよう

高校では中学校の時以上に、家庭学習が重要になります。例年、1年生では1週間に20時間の家庭学習時間が平均です。例えば、平日2時間＋土・日曜日各5時間で週20時間になります。週25時間以上している人も多くいます。このように聞くと驚く人も多いかもしれませんが、おそらく入学当初は、週30時間程度学習しないと学校の課題がこなせないと思います。ある程度なれてくると、週20時間でこなせるようになります。これは基町高校に限ったことではなく、県外の多くの進学校ではどこも似たようなもので、この位の家庭学習時間はごく当たり前のことなのです。

この冊子は、この1年間で皆さんが学習するすべての科目の学習内容と年間計画が載っています。前半部分には、各科目の目標・評価の観点・評価方法・教材・学習方法について書いてあります。後半部分には、年間計画と大まかな試験範囲が載っています。内容をよく頭に入れて、授業を積極的に受講してください。

なお、各科目とも最初の授業で説明があります。

	ページ		ページ
国語総合	4	コミュニケーション英語Ⅰ	20
現代社会	8	英語表現Ⅰ	21
数学Ⅰ・A・Ⅱ（普通）	9	家庭基礎	23
数学Ⅰ（創造表現コース）	10	素描Ⅰ（創造表現コース）	24
物理基礎（普通）	11	美術Ⅰ（創造表現コース）	24
生物基礎（普通）	12	美術基礎（創造表現コース）	25
科学と人間生活（創造表現コース）	14		
体育	15		
保健	16		
音楽Ⅰ（普通）	17		
美術Ⅰ（普通）	18		
書道Ⅰ（普通）	19		

◆◆◆国語総合（普通・創造表現コース）◆◆◆

1. 授業の目標

国語を的確に理解し、適切に表現するための能力を身につける。近現代の文章、古典（古文・漢文）の文章を通じて、ものの見方、感じ方を深めるとともに、読解力と表現力を高める。

なお、授業は現代文2時間（2単位）・古典3時間（古文2時間と漢文1時間で3単位）に分けて行う。

現代文……説明的文章（評論）・文学的文章（小説・韻文）の読解

古 文……説話・随筆・物語・歴史物語・和歌・日記・紀行の読解

古典文法（品詞の理解・用言および助動詞についての学習）

漢 文……訓読のきまりの理解、故事成語・近体詩・思想の読解

授業で扱えない教材については、プリント・問題集など自主学習で補っていく。学習予定については後掲の進度表で示している。

2. 評価の方法および評価の観点

定期考査を〈現代文〉〈古典〉の二つで行う。

次の各項目を評価の観点とし、続いて記す評価の方法を用いて総合的に評価する。

- (1) 知識・理解・表現……表現と理解に役立てるための、文法・表記・語句・語彙・漢字等を理解し、知識を身につけているか、文学作品等の背景にある文化に興味を持ち、理解しようとしているか、といった観点をを用い、国語の総合的な力を評価する。なお、ここでは併せて「読む能力」を観点として用いる。また、現代文においては「書く能力」「話す・聞く能力」も重視する。

○評価の方法：定期考査・実力テスト・小テスト

- (2) 関心・意欲・態度……授業内容や課題に興味を持ち、積極的に学習に取り組んでいるか。

○評価の方法：提出物・週末課題・授業態度・出席状況

評価の方法の100点法における割合を次のようにする。

評価の観点	評価の方法	100点法の割合
知識・理解・表現	定期考査・実力テスト・小テスト	80%
関心・意欲・態度	提出物・週末課題・授業態度・出席状況	20%

3. 教材

○教科書「高等学校 国語総合」（第一学習社）

○現代文副教材「品詞別頻出漢字マスター3000」（尚文出版）

「ルート現代文2」（中央図書新社）

「進研 WINSTEP 現代文1 改訂版」（株式会社ラーンズ）

○古 典副教材「解釈のための必携古典文法 三訂版」（中央図書）

「改訂版プログレス古文総演習 基本編」（いっずな書店）

「進研 WINSTEP 古典1 改訂版」（株式会社ラーンズ）

「必携 古典文法練習ノート」（尚文出版）

「古典文法習得のための助動詞マスターノート 三訂版」（数研出版）

「基礎から解釈へ 漢文必携 四訂版」（桐原書店）

「基礎漢文 改訂版」（尚文出版）

「漢文句法マスターノート」（数研出版）

- 現代文・古典共通副教材「ビジュアルカラー 国語便覧」(大修館書店)
「高校国語入門 総合 新装版」(株式会社ラーンズ)

4. 学習方法

【 現代文 】

I 予習の方法

教材を熟読する(特に小説・詩・短歌・俳句などは朗読も大切)。

↓
語句の読みと意味を調べる(辞書を引きノートに整理する)。

↓
構成について考察する。

↓
疑問点を整理し考察する。

II 授業を受けるにあたって

授業を受け、教員や他の生徒の読みに学ぶ(不明確なところは必ず質問しよう)。

↓
新たな疑問点を確認し、納得できるまで考察を続ける。
※作品の部分から全体へ、全体から部分へ、といった読みの繰り返しこそが読解力につながっていくものである。

III 復習の方法

授業で確認したことを整理する。

↓
発展学習に取り組む(自分の意見・作者や作品についてさらに深く掘りさげるなど)。

IV 漢字学習について

副教材の漢字テキストで定期考査前に必ず予習しておくとともに、日頃から計画的に学習し、基礎的な読み書きの力をつけておく。

V 課題図書について

読書の記録や感想文は必ず決められた枚数を守り、期限までに提出する。

VI 日常生活の充実について

①読書のすすめ

図書館利用の手びきに載る「百冊の本」の読破を試みよう。日本の古典・現代の文章だけでなく、世界文学へも目を向けてみよう。また、自然科学系・人文科学系の本にも挑戦してみよう。その際、読書の記録をつけてみるとよい。

②新聞を活用しよう

新聞の社説やコラム(「朝日新聞」の「天声人語」・「毎日新聞」の「余録」・「読売新聞」の「編集手帳」・「中国新聞」の「天風録」など)を読む。社説はその新聞の主張を示し、コラムには社会の出来事や四季折々の風物が記されているので、どちらも毎日読む習慣をつけるとよい。小論文の力を養うために、二百字程度でまとめてみるのもよいだろう。

③図書館などの利用

放課後や昼休み、学校図書館で読書したり、調べ物をしたりする。また、公立図書館では、市立中央図書館が本校に近く、利用するのに便利である。

【 古 文 】

I 予習の方法

教材を熟読する（最低3回は朗読する。古文特有のリズムを感じながら読む）。

↓
教科書の本文をノートに写す。

↓
難語句を古語辞典で調べ、品詞や意味をノートに写す。

※単語を調べるときは、できるだけ語源を押さえる。たとえば、「あはれなり」ならば「あ」と「はれ」という感動詞が結合したことばで「うれしい・悲しい・楽しいなど、心にしみいるようにしみじみと感動する思いを表す」（語源）ことを押さえ、基本の意味として「しみじみとした趣がある」と暗記するなど。

↓
用言・助動詞・係り結びの法則・修辭法などを文法書や辞書で確認する。

※用言（動詞・形容詞・形容動詞）・助動詞は古文の基礎なので、しっかり覚える。

↓
口語訳をノートに書く。

↓
疑問点を確認する。

II 授業を受けるにあたって

読みを確認する。

↓
口語訳を確認する。

※辞書は予習・授業・復習の各場面で何度も引くようにしたい。目的の単語がすぐ引けるように努力しよう。口語訳は意識ではなく、逐語訳（一語一語原文に対応した訳）を意識しながら確認していく。

↓
文法・語意・係り結びの法則・修辭法などのチェック

↓
文章の構成を把握し、全体の主旨やテーマを理解する。

↓
古典の世界に親しむ（当時の風俗習慣などもあわせて覚えておくこと）。

III 復習の方法

本文をスムーズに読めるようにし、口語訳の再確認をする。作品の理解を深める。

↓
特にその日の授業で新しく出てきた事項は整理した上で暗記する。

※古文は予習中心で学習していこう。復習では、疑問点が解明できたか、新しい事項がマスターできたかに重点を置き、重要語の暗記などに努めたい。

IV 文法の学習について

2年生までの段階で文法書の内容が終了する。1年生の時から、用言・助動詞を繰り返して覚えること。助動詞は接続・意味・活用の三項目が完全に理解されていないと実際には使えない。

V 単語の学習について

教科書に出てきた古語については、教科書の本文を例文とし、その文脈でどのように使用されているのかということをあわせて暗記していくとよい。単語用のノートを作ってもよい。

【 漢 文 】

I 予習の方法

教材を熟読する（最低3回は朗読する。漢文特有のリズムを感じながら読む）。

書き下し文をノートに書く。余裕があれば白文をノートに写す。

口語訳をノートに書く。

気付いた句法については調べて整理する。

疑問点を確認する。

II 授業を受けるにあたって

読みを確認する。

書き下し文・口語訳を確認する。

※書き下し文は助詞・助動詞がひらがな書きになっているかがポイント。口語訳は意識ではなく、逐語訳を意識して確認する。

重要な句法について確認する。

文章構成の理解、文章全体の内容理解を深める。

漢文の世界に親しむ。

III 復習の方法

本文をスムーズに読めるようにし、口語訳の再確認をする。作品の理解を深める。

特にその日の授業で新しく出てきた事項（特に句法）は整理した上で暗記する。

※古文と同じく、漢文も予習中心で学習していこう。

IV 漢字の学習について

漢字に親しむようにしたい。例えば、「之」を「の」と読んだり、「これ」と読んだり、「ゆく」と読んだりする。読み方に違いがあることを理解していこう。再読文字には特に注意しよう。

V 句法の学習について

教科書及び副教材問題集に出てくる句法をノートに整理しておこう。特に副教材は句法中心に学習していく構成になっている。授業で扱われなかった句法についても、副教材で確認するようにしたい。

◆◆◆現代社会（普通・創造表現コース）◆◆◆

1. 授業の目標

わたしたちの生きている現代社会の諸課題を、政治、経済、思想・文化などのさまざまな観点から理解し、その解決に向けて主体的に関わろうとする態度を形成する。また、青年期の心理や青年期の意義を理解し、過去から現代までの諸思想の学習を通して、自己の生き方や在り方を考える。レポート作成などを通じて表現力の向上もめざす。

2. 評価の観点

以下の各観点から評価する。

- ① 問題設定と問題解決能力：現代社会や自己の抱える問題の概要を理解し、その解決のために必要な対策を主体的かつ具体的に考えることができる。
- ② 情報収集と整理能力：必要な情報を多様な方法で入手し、課題に応じて取捨選択できる。
- ③ 知識：現代社会の基本的な仕組みが説明できる。現代社会に関する基本用語が具体的事例のなかで理解できる。
- ④ 意欲：新聞・ニュースなどを通して時事問題を把握しようとしている。授業中に集中し、積極的に参加している。

3. 評価のための資料

以下の諸資料にもとづいて総合的に評価する。

- ① 定期考査：基本事項の定着、資料読解力、論理的思考力、などを主に評価する。
- ② 夏課題（レポート作成）：課題設定、調査研究能力、表現力を主に評価する。
- ③ 授業態度：意欲、発表、積極性、集中力などを授業観察、課題提出を通して評価する。
- ④ その他：出席状況等も考慮して評価する。

4. 評価方法

- | | | |
|-------------|----------------|------|
| ① 関心・意欲・態度： | 授業態度、定期考査、課題提出 | …10% |
| ② 思考・判断・表現： | 定期考査 | …20% |
| ③ 資料活用の技能： | 課題提出 | …10% |
| ④ 知識・理解： | 定期考査、発表 | …60% |

5. 教材

- ① 教科書『現代社会』（第一学習社）
- ② 資料集『最新 新版 現代社会資料集 2014』（第一学習社）

6. 平素の学習方法

- ① 授業に集中し、内容を理解するように努める。
- ② 新聞を丁寧に読み、テレビのニュース番組もできるだけ見るようにして、社会のできごとに関心を持つようにする。
- ③ 試験前には、時間をかけてしっかり学習する。
- ④ 政治、経済、思想・文化等に関する本をできるだけ読むようにすること。少しがんばって新書等を読むようにすること。新書には、岩波新書、岩波ジュニア新書、中公新書、講談社現代新書、ブルーバックスなどがある。これらの中から、興味・関心のあるものを選んで読むようにする。

◆◆◆数学Ⅰ＋数学A＋数学Ⅱ（普通）◆◆◆

1. 授業の目標

基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方の良さを認識できるようにする。

2. 評価の観点

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1. 数学への関心・意欲・態度 | (週課題・小テスト・授業態度等 10%) |
| 2. 数量・図形などについての知識・理解 | (定期考査・小テスト等 50%) |
| 3. 数学的な技能 | (定期考査・小テスト等 20%) |
| 4. 数学的な見方や考え方 | (定期考査・小テスト等 20%) |

3. 評価の方法

定期考査や基礎力テストなどのテストを中心に、総合的に評価する。

4. 教材

教科書	数学Ⅰ（数研出版） 数学A（数研出版） 数学Ⅱ（数研出版）
傍用問題集	サクシード数学Ⅰ＋A、Ⅱ＋B（数研出版）
参考書	Focus Gold 数学Ⅰ＋A、Ⅱ＋B（啓林館）

5. 平素の学習方法

- 数学は予習より復習が重要（中学の勉強スタイルから高校の勉強スタイルへ）
数学は中学校時代に比べ、量が2倍、スピードが2倍、あわせて4倍大変だと言われます。最初は、このギャップに驚く人もいることでしょう。しかし、必要以上におそれることはありません。毎日復習すれば、数学はきっと楽しい教科になります。復習をすることで、次の授業での「消化吸収率」が上がり、次の復習が楽になります。このサイクルを早く身につけましょう。
- 対応表を活用しよう
単元ごとに、問題集と参考書の対応表が配られます。平素の復習はこれを参考にしてください。また、「週課題」として対応表から宿題が出ます。
- 学校の授業で受験まで対応
皆さんの中には中学時代塾に行っていた人も少なくないと思います。もしかしたら、勉強は塾中心だった人がいるかもしれません。基町高校では、1年生から大学受験も意識して授業が展開されます。日々の授業を大切に、自宅で問題集や参考書(学校で購入)を繰り返し学習することで、内容をしっかり消化し、これまで多くの先輩が難関大学にも合格できる力をつけてきたことが実証されています。
受験勉強のために、あわてて塾に行く必要は全くありません。学校の授業と塾での学習の2つともが消化不良となり、お金と時間を無駄にしてしまうこともあります。
- 先生を利用しよう
数学の上達のコツは、自分でしっかり考えながら問題を解いていくことです。でも、一人ではいくら悩んでも手がかりすら得られないこともあります。こんなときは、友人や先生を利用してください。数学科には13人の（優秀でやさしい？）スタッフがいます。もし、数学教官室に来て、担当の先生がいなくても大丈夫。気軽に他の先生に質問してください。

詳しくは、最初の授業で説明します。

ノートは授業用と問題集用(課題提出用)の最低2冊(担当によっては3冊と指示されることもある)は用意しておいてください。

◆◆◆数学Ⅰ（創造表現コース）◆◆◆

1. 授業の目標

基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方の良さを認識できるようにする。

2. 評価の観点

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1. 数学への関心・意欲・態度 | (週課題・小テスト・授業態度等 10%) |
| 2. 数量・図形などについての知識・理解 | (定期考査・小テスト等 50%) |
| 3. 数学的な技能 | (定期考査・小テスト等 20%) |
| 4. 数学的な見方や考え方 | (定期考査・小テスト等 20%) |

3. 評価の方法

定期考査や基礎力テストなどのテストを中心に、総合的に評価する。

4. 教材

教科書	高等学校 数学Ⅰ (数研出版)
傍用問題集	基本と演習テーマ数学Ⅰ (数研出版)

5. 平素の学習方法

・数学は美しい

優れた芸術家は、優れた数学者であったと言われています。数学には美しさが溢れています。数学を学ぶことで、あわせて芸術のセンスを磨いてください。

・数学は予習より復習が重要 (中学の勉強スタイルから高校の勉強スタイルへ)

数学は中学校時代に比べ、格段に量多く、スピードが速くなります。最初は、このギャップに驚く人もいることでしょう。しかし、必要以上におそれることはありません。毎日復習をすれば、数学はきっと楽しい教科になります。復習をすれば、次の授業の「消化吸収率」が上がり、次の復習が楽になります。このサイクルを早く身につけましょう。

・学校の授業で受験まで対応

皆さんの中には中学時代塾に行っていた人も少なくないと思います。もしかしたら、勉強は塾中心だった人がいるかもしれません。基町高校では、1年生から大学受験も意識して授業が展開されます。日々の授業を大切に、自宅で問題集(学校で購入)を繰り返し学習することで、内容をしっかり消化し十分力をつけることができることを、これまで多くの先輩が実証しています。

受験勉強のために、あわてて塾に行く必要は全くありません。学校の授業と塾での学習の2つともが消化不良となり、お金と時間を無駄にしてしまうこともあります。

・先生を利用しよう

数学の上達のコツは、自分でしっかり考えながら問題を解いていくことです。でも、一人ではいくら悩んでも手がかりすら得られないこともあります。こんなときは、友人や先生を利用してください。数学科には13人の(優秀でやさしい?)スタッフがいます。もし、数学教官室に来て、担当の先生がいなくても大丈夫。気軽に他の先生に質問してください。

詳しくは、最初の授業で説明します。

◆◆◆物理基礎（普通）◆◆◆

1. 授業の目標

日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。

2. 評価の観点

関心・意欲・態度（約15%）

- 物理的な自然現象に対する興味・関心を高めているか。
- 意欲的に課題を追求する態度を身につけているか。

思考・判断・表現（約15%）

- 課題を遂行するにあたって、科学的・論理的に思考し、判断しているか。
- 課題を遂行するにあたって、自らの考えを的確かつ簡潔に相手に伝えることできたか。
また発表にはどのような工夫がなされたか。

観察・実験の技能（約20%）

- 推論、実験、検証の過程で科学的な考え方・方法を用いたか。
- 課題を遂行するために必要な情報をどのように適切に収集していったか。
- 実験器具をどのように調達し、あるいは工夫して活用したか。

知識・理解（約50%）

- 学習した物理の基本的な概念や原理・方法が正しく理解できたか。
- 得た知識や理解したことを、その後の学習や生活の中で応用しようとしているか。

3. 評価方法

関心・意欲・態度・・・授業ノート、課題ノートなどの提出（約10%）

思考・判断・表現・・・定期考査・実力テストの論述問題、授業中の発問や発表、発表内容と発表の仕方（約20%）

観察・実験の技能・・・実験レポート（約10%）

知識・理解・・・定期考査・実力テスト、報告書などの提出（約60%）

*ただし、授業態度や提出物の提出状況が悪い場合、状況に応じて評価に反映する。

4. 教材

教科書：物理基礎（東京書籍）

問題集：セミナー物理基礎（第一学習社）、問題プリント

資料集：新課程 フォトサイエンス 物理図録、資料プリント

5. 平素の学習方法

(1) 授業を大切にしよう

- ① 自分の身のまわりの物や、起きている物理現象に注意して、何が起きているのか考えよう。
 - ② 似たような現象を多く収集し、規則性がないか考えよう。
 - ③ 授業の中で学習する物理法則が、具体的に身のまわりでどのように現れているか考えよう。
 - ④ 物理概念を理解し、諸現象の説明をしたり、洞察するよう努めよう。
 - ⑤ 物理は暗記科目ではない。
 - ・授業や教科書で学習した法則、公式は覚えるのではなく、導く学習をしていこう。
 - ・セミナー物理基礎（問題集）を、授業の進度に遅れないよう解いていこう。
 - ⑥ 授業でわからないところがあれば、必ず教科担当者に質問する癖をつけよう。
- (2) 復習は授業のあった日のうちに、必ずしよう。
- ① その日のうちに少なくとも20分くらいの時間をかけて、何を学習したか整理しよう。

- ② 用語、概念、物理量、単位などを整理し、学習内容を体系化していこう。
- (3) 実験の目的を理解し、プリントにまとめていこう。
 実験・観察は学習した物理法則を深く理解する上で欠かせないものである。また、実験には事故がつきものであるから、実験書をよく読み、指導者の注意事項をよく聞いて実験に臨もう。
- ① 実験の目的・器具・方法などを十分に理解した上で実験に取りかかろう。
- ② 測定値をとる時には、測定の範囲をできるだけ広くするとともに、変化の仕方が変わるところでは、できるだけ多くの測定値を得るように注意しよう。
- ③ 測定値には必ず誤差がある。ある物理量Aに、物理量Bはどのようにかわるかを、グラフにあらわし、全体的傾向をとらえ、数的に明らかにしよう。
- ④ グラフは1枚の用紙に書き、グラフの傾きや比例定数はできるだけ広い範囲で決めよう。
- ⑤ グラフの傾向から物理的意味を読みとり、物理法則と照らし合わせながら考察をしよう。

<参考書等>

本校の実態にあった参考書を、授業の中で紹介する予定である。自分で購入する場合は、必ず自分の目で確かめ、わかりやすいものを選んで購入するようにしよう。迷うようであれば、教科担当者に相談すること。

<家庭学習について>

1年時には、授業で学習した内容についての復習を中心に学習しよう。具体的にはその日学習した基本的な内容をノートにまとめ、セミナー物理基礎(問題集)等の問題をノートに解くことを強くすすめる。

また多くの事に関心を持ち、科学関連の本・テレビ番組・新聞などにも接し、知識を得るとともに理解する力・考察する力を身につけることも大切である。

◆◆◆生物基礎（普通）◆◆◆

1. 授業の目標

日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察や実験などを行い、生物学的に探求する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を育成する。

具体的には、生物の多様性や共通性、遺伝情報とタンパク質の合成、生物の体内環境や免疫、植生と遷移、気候とバイオーム、生態系と物質循環、生態系のバランスと保全などを学習する。

2. 評価の観点

関心・意欲・態度

生物学に対する関心や探求心の有無

観察・実験

探究的な過程に基づいた実践

思考・判断・表現および知識・理解

探究的な過程に基づいた判断と基本的概念および原理・法則の理解、習得

3. 評価方法

関心・意欲・態度…授業ノート・課題 (約15%)

観察・実験…実験観察レポート・スケッチ (約15%)

思考・判断・表現および知識・理解…定期考査・小テスト等 (約70%)

*ただし、授業態度や提出物の提出状況が悪い場合、状況に応じて評価に反映する。

4. 教材

教科書：高等学校 生物基礎（第一学習社）

資料集：スクエア最新図説生物neo（第一学習社）

問題集：セミナー生物基礎（第一学習社）

5. 平素の学習方法

平素の学習方法については、こうすれば必ず成績が上がるというものはない。結局、自分自身にあった学習方法を自分で見つけるしかない。以下に、予習のし方、授業の受け方、復習のし方の例をそれぞれ分けて述べるので、自分にあった学習方法を見つける上での参考にしてほしい。

(1) 予習について

生物では、あまり予習に時間をとる必要はない。教科書を読み、どんなことを勉強するのかを知っておく程度でよい。ただし、実験プリントを事前に配付された場合は、実験プリントの内容を頭に入れておくだけでなく、実験の前日には、教科書や資料集に書かれている操作や手順まで目を通しておくことよい。こんな実験をするとこんな結果が得られるのではないかと予想を立ててみることも必要である。

(2) 授業について

まず、授業へは興味を持ち、積極的に参加することが第一である。具体的には、次の5点を常に心がけてもらいたい。

- ① 基礎的なことは授業の中で学びとる姿勢が必要である。そのためには、板書をノートに写すだけでなく、口頭での説明もできるだけノートに書き加える。
- ② 図や表を黒板に描きながら説明することが多いので、使った図や表をその説明とともに正確にノートに写しておく。教科書や資料集の図・表もよく見ておくこと。
- ③ 不明な点やあいまいなところはそのままにせず、教師やクラスメイトに聞くようにする。
- ④ 実験や観察をするときは、予習してきたことを生かして積極的かつ安全に配慮して参加する。
- ⑤ ノートづくりばかりに気持ちが奪われて、教師の話聞きもらすことのないようにする。

(3) 復習について

復習には、当日の復習と1つの単元が終わった後の復習の2種類があるので、それぞれのポイントを箇条書きにしておく。

① 当日の復習について

- ・ 授業ノートを見ながら学んだことを頭の中で再現してみる。
- ・ 図や表など、授業中にまとめきれなかったノートを教科書・資料集を使ってきちんと仕上げしておく。また、参考書・事典なども活用して、必要と思われることをノートに補足しておく。
- ・ 専門用語の意味を理解して覚える。部位の名称などは必ず図といっしょに覚えること。
- ・ 実験・観察があった日には、実験ノートにレポートをきちんとまとめておく。その際には、必ず教科書や資料集を活用する。

② 1つの単元が終わった後の復習について

- ・ 1つの単元の内容について、参考書や事典などを利用して全体のつながりを整理する。
- ・ 専門用語を自分で納得のいく文章や数式で表してまとめておく。
- ・ 教科書に出てきた図・表を見直して、その意味するところを理解し覚える。重要と思われることは、授業ノートに書き加えておく。
- ・ 問題集の基本問題を解いて、その単元の内容がきちんと理解できているかを確認をする。間違ったところは、もう一度、教科書やノートを見直す。さらに発展的な学習を目指すのであれば発展問題にチャレンジするとよい。
- ・ 新聞・テレビ番組・本などにも接し、理解を深めたり、知識の幅を広げることに心がける。

◆◆◆科学と人間生活（創造表現コース）◆◆◆

1. 授業の目標

「科学と人間生活」は、中学校理科の基礎の上に、自然と人間生活との関わり、及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、身近な事物・現象に関する観察、実験などを通して理解し、科学的な見方や考え方を養うとともに、科学に対する興味・関心を高めることを目標としている科目である。

また、常に自然に対する興味、関心をもって授業に臨んでもらいたい。

2. 評価の観点・規準

- ① 関心・意欲・態度
自然の事物・現象に関心や探求心をもち、意欲的にそれらを探求するとともに、科学的態度を身につけている。
- ② 思考・判断・表現
自然の事物・現象の中に問題を見だし、実験、観察などを行うとともに、事象を実証的・論理的に考えたり、分析的・総合的に考察したりして問題を解決し、事実に基づいて科学的に判断し、それを的確に表現する。
- ③ 観察・実験の技能
観察・実験の技能を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録し、整理する。
- ④ 知識・理解
実験・観察などを通して、自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけている。

3. 評価方法

観点別に、以下の内容や割合を基準として、総合的に評価する。

- ① 関心・意欲・態度（授業態度、実験操作、課題等 10%）
- ② 思考・判断・表現（定期考査、確認試験、実験レポート等 20%）
- ③ 実験・観察の技能（定期考査、実験操作、実験レポート等 10%）
- ④ 知識・理解（定期考査、確認試験、課題等 60%）

4. 教材

教科書：「科学と人間生活」啓林館

副教材：「科学と人間生活の学習ノート」啓林館

5. 平素の学習方法

「科学と人間生活」は、中学校で既習した内容を、用語や数式を用いて説明している部分が多い。そのため、用語や概念を理解し、現象を説明・洞察することが大切である。授業を大切にすることは当然であり、復習を中心として、家庭学習の時間を十分に確保してもらいたい。一週間の時間数は少ないので、その週の終わりには、関係する部分のノート整理と問題演習を必ずやっておく。特に問題演習は、授業内容の理解に役立つものである。

その他、大切な事柄について説明しておく。

- ① 板書用ノートは考査前の勉強に活用できるように整理しておくこと。
- ② 授業中に配付されるプリント類は、専用のファイルとして保存しておくこと。
- ③ 教科書やプリントを重視し、大切な部分には書き込みや、アンダーラインを引くなどして理解の助けとすること。
- ④ 実験プリントをよく読み、実験に積極的に参加し、結果を考察して、実験レポート等を整理すること。

◆◆◆体育（普通・創造表現コース）◆◆◆

1. 授業の目標

各種目の合理的な実践を通して、運動技能を高め、強健な心身の発達を促す。

- ①生涯を通じてスポーツに親しむ態度を育てる。
 - ・生徒個々の能力を生かす方法を考えさせる。
 - ・生徒個々が各自の能力に応じて、自分自身の体力づくり・健康の保持増進について自分自身で考え、取り組めるようにする。
 - ・授業を中心に、生活全般における安全について、生徒個々が考えられるようにする。
- ②各種目の基礎技能・基礎的な練習方法が習得できるよう取り組む。
- ③スポーツに積極的に親しむ態度を育て、自主的・主体的な体育活動を行わせる。
特に、継続して取り組む姿勢や強健な身体づくり（持久力・筋力）に取り組ませる。
また、仲間を大切に、協力、助け合うなどし、集団としての素養を高める。
- ④心身の発達理論とその対処法および各種目の構成などを理解させる。

2. 評価方法

以下の4観点にもとづき考查期間ごとに教科担当が評価する。
年間では、すべての期間を総合して学年の評価とする。

- ①思考・判断の分野 割合：25%
授業全般における自主的、主体的活動の評価
 - ・活動の充実感を向上させるために主体的に参加しているか。
 - ・授業の準備、片付けに積極的に取り組めたか。
 - ・より安全に練習・試合を行えているか など
- ②知識・理解の分野 割合：25%
授業全般における理解度の評価
 - ・指導者の指示・要求に対して適切な行動をとれているか。
 - ・各種目のルールや審判法、トレーニングの方法や効果を理解できているか。
 - ・安全に留意すべき点を理解しているか。
 - ・ルールに関する小テストの実施（適宜）
 - ・体育理論の分野の理解（教科書の活用）
- ③関心・意欲・態度の分野 割合：25%
授業全般における自主的・主体的活動の評価
 - ・授業における取り組む姿勢を重要な評価観点とする。
 - ・必要に応じて記録ノートやレポート、感想文等を課題とする。
 - ・配慮の必要な生徒については授業見学を原則としレポート提出により評価する。
- ④技能 割合：25%
 - ・各種目毎スキルテストを実施し、評価する。（保健体育記録表に記入）
 - ・毎時の授業中の活動を技能的に評価する。
 - ・配慮を要する生徒については、別途可能なスキルテストを実施するかレポートをこれに代える。

3. 教材

保健体育記録表・アクティブスポーツ(大修館)・現代高等保健体育(大修館)

4. 平素の学習方法

- ・教科書や副教材を種目実施時期にその種目に関わる項目をよく読み、種目の特徴、特性を捉えるとともに日頃より関心を抱くようにする。
- ・日頃からスポーツ、健康・安全にかかわる情報を収集し、授業時に役立てるように心掛ける。

- ・簡単で合理的なトレーニングや身体活動等を有効に活用し、授業時間に限らず日々の活動の中で体力づくり・健康づくりに心掛ける。

◆◆◆保健（普通・創造表現コース）◆◆◆

1. 授業の目標

わが国の疾病構造や社会の変化に対応して、個人の生活構造と健康との関わりについて理解させ、自ら進んで健康の保持増進を図る能力と態度を育成する。

2. 評価方法

以下の4観点にもとづき考查期間ごとに教科担当が評価する。

学年末はすべての期間をとおしての評価とする。

①思考・判断の分野 割合：10%（課題・ノート・授業姿勢）

授業全般における自主的・主体的活動の評価

- ・授業中において発問の姿勢はあるか
- ・教員からの設問への対応は適切か（授業および考查）
- ・授業の準備・片付けに取り組めたか

②知識・理解の分野 割合：80%（おもに定期考查で評価）

- ・各単元の基本的な理論は理解できているか
- ・各単元のおもな用語は理解できているか
- ・各単元においての歴史的事実や現在の状況に関して正しい理解はできているか
- ・教員の授業内容について理解できているか
- ・ノート提出による理解度の把握

③関心・意欲・興味の分野 割合：10%（出席・ノート・授業姿勢）

授業全般における自主的・主体的活動の評価

- ・出席状況を中心に授業での取り組む姿勢を評価する。
- ・授業全般において取り組む姿勢を最も重視し評価する。
- ・必要に応じて授業ノートや課題レポート等を課題とする。

④技能

- ・特に救急処置の分野での「心肺蘇生法」については実習をおこないその理解と実技実施要領を評価する。

上記観点による絶対評価

3. 教材

現代高等保健体育（大修館） 現代高等保健体育ノート（大修館）

4. 平素の学習方法

教科書だけでなく、日頃から健康や環境に関する事項に興味・関心をもち、新聞やテレビ・雑誌などから情報を収集しておく。

◆◆◆音楽Ⅰ（普通）◆◆◆

1. 授業の目標

- ①美しいものに触れ、美しいものを意欲的に探求し、創造する態度を養う
- ②日本の伝統音楽について、理論とともに実技を行い、理解を深める
- ③理論、歴史を学ぶことにより、音楽芸術に対する理解を深める

2. 評価の方法および評価の観点

- ①音楽への関心・意欲・態度
各分野においてきちんと音楽に向き合い、自ら学び、主体的に表現しようとしているか、授業における意欲、姿勢を評価する。
- ②音楽表現の創意・工夫
多様な表現形式を理解し、自らの表現に活かしているか、単元ごとの発表により評価する。
- ③音楽表現の技能
声、楽器を活かして表現する技能を身につけているか、単元ごとの発表により評価する。

3. 教材

- ①教科書
- ②実技用具として、篠笛、ギター

4. 学習方法

- ①自分自身の音楽に関する知識、能力を知る。基礎的な演奏に必要な技術を身につけるために、基礎練習を行う。またそのために必要な基本的な知識を得る。
- ②合唱、合奏する技術、喜びを追求するために、美しいものに触れる機会を持つ。

◆◆◆美術 I（普通）◆◆◆

1. 授業の目標

- ・幅広い創造活動を通して、創ることの喜びを知り、意欲的に制作する態度を養う。
- ・美しさを探求する態度を養い、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てる。
- ・鑑賞する能力を身につけ、美術文化についての理解を深める。

2. 評価の観点

- ①関心・意欲・態度
 - ・美に対する感動や、自己の考えを主体的に表現することができる
- ②発想や構想の能力
 - ・多様な表現様式を理解し、構想を練ることができる
- ③創造的な技能
 - ・工夫して（意図に応じて）材料、用具を活かして表現することができる
- ④鑑賞の能力
 - ・日本及び諸外国の美術文化についての理解を深め、美術作品の美しさや特質等について自己の意見を持ち、互いに批評しあうなどすることができるなど。

3. 評価方法

- | | | |
|-----------|----------------------|-----|
| ①関心・意欲・態度 | ・授業態度、制作に対する意欲や姿勢を評価 | 10% |
| ②発想や構想の能力 | ・制作作品より評価 | 30% |
| ③創造的な技能 | ・制作作品より評価 | 30% |
| ④鑑賞の能力 | ・鑑賞会や批評会で評価 | 30% |

4. 教材

- ・教科書、実技用具など

5. 平素の学習方法

- ・美術表現の基礎を習得し、主題を追求して表現する。
- ・生活や社会を心豊かにする美術の働きについて考え、自然やさまざまな物体・現象に対して、観察する心構えを持ち、幅広い視点で物を見つめる習慣を身につける。
- ・日本及び諸外国の美術文化や作品に興味関心を持ち、資料収集などを行うとともに、表現の特質や技術について理解しようとする。

◆◆◆書道 I（普通）◆◆◆

1. 授業の目標

- ・書の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てる。
- ・感性を豊かにし、書写能力を高め、表現と鑑賞の基本的な能力を伸ばす。

2. 評価の観点

- ・「関心・意欲・態度」 古典や身近な書に関心を持ち、自ら積極的に取り組もうとしているか。
授業態度を見ます。（10%）
- ・「技能」 書美と技法の理解に努め、表現力や芸術性を高めることができたか。
提出作品の到達度を見ます。（40%）
- ・「知識・理解」 学習内容を的確に理解し、身につけているか。
ファイルやプリントを見ます。（20%）
- ・「思考・判断・表現」 制作作品に関して計画的に取り組んでいるか。
添削作品を見ます。（20%）
- ・「鑑賞」 古典や相互の作品を鑑賞し、そのよさや美しさを味わうことができたか。
授業観察（10%）

3. 評価方法

- ・提出物(作品・ファイル) 授業態度 添削作品(作品の制作過程)を 総合的に評価します。

4. 教材

- ・教科書、副教材(硬筆)、実技用具・用材、ファイルなど

5. 平素の学習方法

- ・硬筆や漢字仮名交じりの書では、日常生活の中で美的感性を追求し、書を生活に生かすよう心がける。また、日頃から文字を丁寧に書く習慣を身に付けることが大切です。
- ・中国や日本の書道史の学習においては、文学史や世界史・日本史の学習領域とも共通することが多いので注意する。
- ・書道の学習では多書(多く練習し技術を磨くこと)・多見(多くの書作品を鑑賞すること)を心がけ、妥協しない姿勢を身に付けよう。

◆◆◆コミュニケーション英語Ⅰ（普通・創造表現コース）◆◆◆

1. 授業の目標

- ・英語で書かれた文章を、概要をとらえながら読める読解力を伸ばすとともに、総合的な英語の力を養うことによって、積極的にコミュニケーションを図る態度を育てる。
主に教科書を用いて、重要表現・熟語・構文・文法・会話表現に触れながら、内容把握をめざす。（週3時間）
- ・ALTとのTeam-Teachingを通じて主に聴く・話す能力の育成をめざし、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。（週1時間）

2. 評価の観点

- コミュニケーションへの関心・意欲・態度
コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。
- 表現の能力
日常的な話題について、情報や考えなど伝えたいことを英語で話したり、書いたりして表現する。
- 理解の能力
日常的な話題について、英語を聞いたり、読んだりして、情報や考えなど相手が伝えようとすることを理解する。
- 言語や文化についての知識・理解
日常生活の身近な話題についての英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある文化などを理解する。

3. 評価の方法

- コミュニケーションへの関心・意欲・態度（授業態度、小テスト、課題等 20%）
- 表現の能力（定期考査、小テスト、課題等 20%）
- 理解の能力（定期考査、小テスト、課題等 30%）
- 言語や文化についての知識・理解（定期考査、小テスト、課題等 30%）
※但し、課題・小テスト等の取り組みが著しく不十分な場合、単位認定できないことがある。

4. 教材

- ・PROMINENCE Communication English I 及びワークブック・音声CD 東京書籍

5. 平素の学習方法

予習

- ・英文を読み、わからない単語・熟語を辞書等で調べる。
- ・できるだけ文章の内容を把握し、概要をまとめる。
- ・音声CDを聞き、新出単語の発音や文の区切れを確認する。

授業

- ・予習での疑問点を解決するよう努める。
- ・英語による授業を基本とするので、指示内容をよく聞き、英語を使うよう努める。
- ・和訳にとらわれるのではなく、文章の内容・要点の把握に努める。
- ・特にTeam-Teachingでは積極的に英語でコミュニケーションをとるよう努める。

復習

- ・授業内容の確認をする。
- ・ワークブック等を用いて、学習内容の確認をする。
- ・音声CDを用いて、内容を考えながら音読する。

6. その他

- ・毎週の週末課題と夏・冬・春の長期休業中の課題があり、それぞれ定期考査や実力テストの範囲となります。
(詳細は最初の授業で配付されるプリントをよく読み、各教科担任の指示に従うこと)

◆◆◆英語表現 I (普通・創造表現コース) ◆◆◆

1. 授業の目標

英語によるコミュニケーションを図る上で必要となる基本的な英語の発音・イントネーションなどの音声面、場面や状況に応じた表現、文法・語法を学び、英語で表現する基礎力を身に付ける。

2. 評価の観点

- コミュニケーションへの関心・意欲・態度
コミュニケーションに関心を持ち、英語を聞いたり話したりして積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。
- 表現の能力
日常生活の身近な話題について、情報や考えなど伝えたいことを英語で話したり、発表したりして表現する。
- 理解の能力
日常生活の身近な話題について、英語を聞いて、情報や考えなど相手が伝えようとすることを理解する。
- 言語や文化についての知識・理解
日常生活の身近な話題についての英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある文化などを理解している。

3. 評価の方法

- コミュニケーションへの関心・意欲・態度 (授業態度、小テスト、課題等 20%)
 - 表現の能力 (定期考査、小テスト、課題等 40%)
 - 理解の能力 (定期考査、小テスト、課題等 20%)
 - 言語や文化についての知識・理解 (定期考査、小テスト、課題等 20%)
- ※但し、課題・小テスト等の取り組みが著しく不十分な場合、単位認定できないことがある。

4. 教材

- ・POLESTAR English Expression I (数研出版)
- ・POLESTAR English Expression ワークブック I (数研出版)
- ・基礎からの新々総合英語 (数研出版)
- ・Grand View English Grammar in 30 Stages Workbook (数研出版) 普通のみ

5. 平素の学習方法

予 習

- ・参考書で内容を確認しながら、テキストのGrammar Check のB～DとExercisesに取り組む。
- ・疑問点をできるだけ明確しておく。
- ・わからない単語の意味は辞書を引いて明らかにしておき、授業内容の理解ができるだけスムーズに行えるよう準備しておく。
- ・小テストに向けて準備を万全にしておく。

授 業

- ・予習での疑問点を解決するよう努める。

復 習

- ・授業内容の確認をする。
- ・ワークブックや参考書の練習問題等に取り組む。
- ・習った表現を用いてオリジナルな英文を作ってみる（英作文）。

6. その他

- ・毎週の週末課題と夏・冬・春の長期休業中の課題があり、それぞれ定期考査や実力テストの範囲となります。
(詳細は最初の授業で配付されるプリントをよく読み、各教科担任の指示に従うこと)

◆◆◆家庭基礎（普通・創造表現コース）◆◆◆

1. 授業の目標

人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。

2. 評価の方法および評価の観点

①評価は、次の4つの観点から行います。

「関心・意欲・態度」20%

家庭や地域の生活に関心を持ち、その充実向上を目指して意欲的に取り組むとともに実践的な態度を身に付けている。

【提出物・出席状況・授業態度】

提出物には、授業プリント・ファイル・課題・レポート・作品等があります。

「思考・判断・表現」20%

家庭や地域の生活について見直し、課題を見付け、その解決を目指して思考を深め適切に判断し、工夫し創造する能力を身に付けている。

【定期考査・提出物】

「技能」20%

家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。

【実技テスト・提出物】

「知識・理解」40%

家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な知識を身に付けている。

【定期考査・実技テスト・提出物】

②特に知識や技術だけでなく、自ら学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力も重視するので、授業や実習に積極的に望むことが必要です。

3. 教材

教科書・・・家庭基礎 自立・共生・創造（東京書籍）

参考書・・・2014 最新 生活ハンドブック 家庭 資料&成分表（第一学習社）

ファイル（プリント類を綴じる）最初の授業で配付します。

4. 学習方法

- ①授業時間を大切にし、授業で使用したプリント類は毎時間きちんと整理して、学習した項目を確認しよう。
- ②作品・課題・レポート等の提出物は、自分の学習の到達度を確認しながら、学習成果につながるよう、主体的に取り組んでいこう。
- ③実験・実習などの体験的学習は、時間毎の目標に到達できるよう積極的に取り組んでいこう。
- ④授業で学んだ知識と技術を自分の生活全般にわたって生かし、実践力と問題解決能力を養っていこう。
- ⑤近年、大学入試での小論文試験において、さまざまな学部で生活体験に基づいた分析と考察が求められる家庭科教育内容に関する問題が出題されています。日頃から授業に主体的に取り組み、新聞や文献を読んでいくことにより、幅広く教養を高めていこう。

◆◆◆素描 I（創造表現コース）◆◆◆

1. 授業の目標

- ・幅広い創造活動を通して創ることのよこびを知り、意欲的に制作する態度を養う
- ・鑑賞する能力を身につけ、美術文化についての理解を深める
- ・感性を高めて美しさを探求する態度を養い、美術を愛好する心情を育てる

2. 評価の観点

- ①関心・意欲・態度
 - ・美に対する感動や、自己の考えを主体的に表現することができる
- ②発想や構想の能力
 - ・多様な表現様式を理解し、構想を練ることができる
- ③創造的な技能
 - ・工夫して（意図に応じて）材料、用具を活かして表現することができる
- ④鑑賞の能力
 - ・日本及び諸外国の美術文化についての理解を深め、美術作品の美しさや特質等について自己の意見を持ち、互いに批評しあうなどすることができるなど。

3. 評価方法

- | | | |
|-----------|----------------------|-----|
| ①関心・意欲・態度 | ・授業態度、制作に対する意欲や姿勢を評価 | 10% |
| ②発想や構想の能力 | ・制作作品より評価 | 50% |
| ③創造的な技能 | ・制作作品より評価 | 30% |
| ④鑑賞の能力 | ・鑑賞会や批評会で評価 | 10% |

4. 教材

- ・教科書、実技用具など

5. 平素の学習方法

- ・自由な発想で自己表現すると同時に、美術表現の基礎を習得する
- ・自然やさまざまな物体・現象に対して、観察する心構えを持ち、美術と自然・美術と歴史等について幅広い視点で物を見つめる習慣を身につける
- ・日頃からさまざまな美術作品に興味関心を持ち、資料収集をおこなうとともに、表現と技術について理解しようとする

◆◆◆美術 I（創造表現コース）◆◆◆

1. 授業の目標

- ・幅広い創造活動を通して創ることのよこびを知り、意欲的に制作する態度を養う
- ・鑑賞する能力を身につけ、美術文化についての理解を深める
- ・感性を高めて美しさを探求する態度を養い、美術を愛好する心情を育てる

2. 評価の観点

- ①関心・意欲・態度
 - ・美に対する感動や、自己の考えを主体的に表現することができる
- ②発想や構想の能力
 - ・多様な表現様式を理解し、構想を練ることができる
- ③創造的な技能
 - ・工夫して（意図に応じて）材料、用具を活かして表現することができる

④鑑賞の能力

- ・日本及び諸外国の美術文化についての理解を深め、美術作品の美しさや特質等について自己の意見を持ち、互いに批評しあうなどすることができるなど。

3. 評価方法

- | | | |
|-----------|-----------------------|-----|
| ①関心・意欲・態度 | ・・授業態度、制作に対する意欲や姿勢を評価 | 10% |
| ②発想や構想の能力 | ・・制作作品より評価 | 30% |
| ③創造的な技能 | ・・制作作品より評価 | 30% |
| ④鑑賞の能力 | ・・鑑賞会や批評会で評価 | 30% |

4. 教材

- ・教科書、実技用具など

5. 平素の学習方法

- ・自由な発想で自己表現すると同時に、美術表現の基礎を習得する
- ・自然やさまざまな物体・現象に対して、観察する心構えを持ち、美術と自然・美術と歴史等について幅広い視点で物を見つめる習慣を身につける
- ・日頃からさまざまな美術作品に興味関心を持ち、資料収集をおこなうとともに、表現と技術について理解しようとする

◆◆◆美術基礎（創造表現コース）◆◆◆

1. 授業の目標

- ・幅広い創造活動を通して創ることのよろこびを知り、意欲的に制作する態度を養う
- ・鑑賞する能力を身につけ、美術文化についての理解を深める
- ・感性を高めて美しさを探求する態度を養い、美術を愛好する心情を育てる

2. 評価の観点

- | | |
|-----------|---|
| ①関心・意欲・態度 | ・・美に対する感動や、自己の考えを主体的に表現することができる |
| ②発想や構想の能力 | ・・多様な表現様式を理解し、構想を練ることができる |
| ③創造的な技能 | ・・工夫して（意図に応じて）材料、用具を活かして表現することができる |
| ④鑑賞の能力 | ・・日本及び諸外国の美術文化についての理解を深め、美術作品の美しさや特質等について自己の意見を持ち、互いに批評しあうなどすることができるなど。 |

3. 評価方法

- | | | |
|-----------|-----------------------|-----|
| ①関心・意欲・態度 | ・・授業態度、制作に対する意欲や姿勢を評価 | 10% |
| ②発想や構想の能力 | ・・制作作品より評価 | 50% |
| ③創造的な技能 | ・・制作作品より評価 | 30% |
| ④鑑賞の能力 | ・・鑑賞会や批評会で評価 | 10% |

4. 教材

- ・教科書、実技用具など

5. 平素の学習方法

- ・自由な発想で自己表現すると同時に、美術表現の基礎を習得する
- ・自然やさまざまな物体・現象に対して、観察する心構えを持ち、美術と自然・美術と歴史等について幅広い視点で物を見つめる習慣を身につける
- ・日頃からさまざまな美術作品に興味関心を持ち、資料収集をおこなうとともに、表現と技術について理解しようとする

Syllabus 科目別年間進度表

ページ

国語総合	28
現代社会	30
数学Ⅰ・数学A・数学Ⅱ（普通）	32
数学Ⅰ（創造表現コース）	33
物理基礎（普通）	34
生物基礎（普通）	36
科学と人間生活（創造表現コース）	38
体育	40
保健	41
音楽Ⅰ（普通）	42
美術Ⅰ（普通）	43
書道Ⅰ（普通）	44
コミュニケーション英語Ⅰ	46
英語表現Ⅰ	47
家庭基礎	48
素描Ⅰ（創造表現コース）	50
美術Ⅰ（創造表現コース）	51
美術基礎（創造表現コース）	52

国語総合／普通・創造表現コース 5単位

	単元名 (太字は現代文)	学習する内容 (太字は現代文)	時間数
前	4月 ●第1回実力テスト 評論一 (説明的文章への導入) 古文：入門 (歴史的仮名遣い) 漢文：入門 (構造と訓読)	「追っかけの精神」西江雅之 「児のそら寝」(宇治拾遺物語) 「訓読に親しむ (一)」	現 4 古 4 漢 3
	5月 小説一 (文学的文章への導入) 評論二 (説明的文章の読解) 古文：入門 (品詞・用言) 漢文：入門 (再読文字・助字)	「羅生門」芥川龍之介 「水の東西」山崎正和 「絵仏師良秀」(宇治拾遺物語) 「訓読に親しむ (二)」	現 6 現 5 古 7 漢 6
	6月 小説二 (文学的文章を味わう) 古文：入門 (用言・係結び) 漢文：入門 (故事成語) ●第1回考査	「夢十夜」夏目漱石 「かぐや姫のおひたち」(竹取物語) 「漁父之利」(戦国策)	現 5 古 4 漢 3
期	7月 評論三 (説明的文章の読解) 古文：物語を楽しむ(助動詞一) 漢文：故事成語	「見る」茂木健一郎 「かぐや姫の嘆き」(竹取物語) 「狐借虎威」(戦国策)	現 7 古 7 漢 4
	8月 ●第2回実力テスト 韻文 (詩を味わう) 古文：随筆を読む (助動詞二) 漢文：故事成語	「一つのメルヘン」「I was born」 「ある人、弓射ることを」他 (徒然草) 「蛇足」(戦国策) 「完璧」(十八史略)	現 6 古 8 漢 3 漢 3
	9月 漢文：古代の史話 ●第2回考査		
後	10月 小説三 (文学的文章の読解) 古文：随筆を読む (助動詞三) 漢文：古代の史話	「富嶽百景」太宰治 「九月二十日のころ」(徒然草) 「先従隗始」(十八史略)	現 6 古 7 漢 4
	11月 評論四 (説明的文章の読解) 古文：日記と紀行 (助動詞四)	「『間』の感覚」高階秀爾 「門出」(土佐日記) 「帰京」(土佐日記)	現 6 古 5 古 4
	12月 韻文 (短歌と俳句を味わう) 漢文：漢詩の鑑賞 ●第3回考査	「その子二十」「こころの帆」 「静夜詩」「月夜」「送元二使安西」他	現 4 漢 5
期	1月 ●第3回実力テスト 評論五 (説明的文章の読解) 評論六 (説明的文章の読解) 古文：物語を楽しむ 漢文：中国の思想	「科学の限界」志村史夫 「グローバリズムの『遠近感』」上田紀行 「東下り」「筒井筒」(伊勢物語) 「学問」「仁」(論語)	現 6 現 6 古 9 漢 6
	2月 小説三 (文学的文章の読解) 古文：和歌と俳諧(和歌の修辞) 漢文：中国の思想	「城の崎にて」志賀直哉 『万葉集』『古今集』『新古今集』より 「政治」(論語)	現 8 古 9 漢 5
	3月 ●第4回考査		

		現代文 副教材 (試験範囲)	古典 副教材 (試験範囲)
前	4月 5月 6月	●第1回考査 『ルート現代文2』1～5 『頻出漢字マスター』P4～P33	●第1回考査 『プログレス古文』1～5 『古典文法練習ノート』1～7 『基礎漢文』P4・P5・1～3 ※『WINSTEP 古典』1～5及び16～18は週末課題で扱う
	7月 夏休み 8月 9月	●第2回実力テスト 『WINSTEP 現代文』4～6 13～15 『頻出漢字マスター』P34～P53 ●第2回考査 『ルート現代文2』6～10 『頻出漢字マスター』P54～P83	※『プログレス古文』6～11及び『基礎漢文』4～10は夏季課題で扱う ●第2回実力テスト 『WINSTEP 古典・ノート』各6～10 『WINSTEP 古典・ノート』各19～23 ●第2回考査 『プログレス古文』12～17 『古典文法練習ノート』8～11 『基礎漢文』11～15
後	10月 11月 12月	●第3回考査 『ルート現代文2』11～15 『頻出漢字マスター』 P84～P123	●第3回考査 『プログレス古文』18～23 『古典文法練習ノート』12～17 『基礎漢文』16～20
	冬休み 1月 2月 3月 春休み	●第3回実力テスト 『WINSTEP 現代文』7～9 16～18 『頻出漢字マスター』 P124～P137 ●第4回考査 『ルート現代文2』16～20 『頻出漢字マスター』 P138～P173 別途指示 『頻出漢字マスター』 P174～P201	●第3回実力テスト 『WINSTEP 古典・ノート』各11～15 『WINSTEP 古典・ノート』各24～28 ●第4回考査 『プログレス古文』24～30 『古典文法練習ノート』18～21・25 『基礎漢文』21～30 別途指示 『古典文法練習ノート』22～24・26 ・27

現代社会／普通・創造表現コース 2単位

		単元名	学習する内容	時数
前 期	4月	第2編 現代の社会と人間としてのあり方生き方 第1章 現代に生きる青年	<ul style="list-style-type: none"> ・青年期の意義と自己を形成の課題 ・現代社会における青年の生き方 ・伝統や文化と私たちの生活 	18
	5月	第2章 個人の尊重と法の支配 第3章 現代の民主政治と政治参加の意義 <第1回考査>	<ul style="list-style-type: none"> ・民主政治における個人と国家 ・基本的人権と法の支配 ・世界のおもな政治体制 ・日本国憲法の基本原理 ・平和主義と安全保障 ・基本的人権の保障と新しい人権 	
	6月	第3章 現代の民主政治と政治参加の意義 第4章 国際政治の動向と日本の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・国民主権と議会制民主主義 ・内閣と行政の民主化 ・裁判所と人権保障 ・地方自治と住民の福祉 ・世論形成と政治参加 ・国家主権と国際法 ・国際連合の役割 ・今日の国際社会 ・核兵器の廃絶と国際平和 ・国境と領土問題 ・地域紛争と人種・民族問題 ・外交政策と日本の役割 	16
後 期	7月			
	9月	<第2回考査>		
	10月	第5章 現代の経済社会と私たちの生活	<ul style="list-style-type: none"> ・経済社会と経済体制 ・現代の企業 ・市場経済のしくみ ・経済成長と景気変動 ・政府の経済的役割と租税の意義 ・金融機関のはたらき ・戦後の日本経済の動き ・産業構造の変化 ・雇用と労働問題 ・公害の防止と環境保全 ・消費者保護と契約 ・社会保障と国民福祉 	16
11月				
12月	<第3回考査>			
後 期	1月	第6章 国際経済の動向と日本の役割 第7章 現代に生きる倫理	<ul style="list-style-type: none"> ・国際経済のしくみと貿易の拡大 ・国際経済の動向 ・発展途上国の経済と南北問題 ・国際協調と日本の役割 ・豊かな人生を求めて ・日本の伝統的なものの考え方 ・西洋の自然観と人間観 ・私たちの課題 	20
	2月	<第4回考査>		
	3月			

学習のねらい（試験範囲）

- ・「現代社会に生きる青年」では、自分自身を振り返りながら、青年期の意味、青年期の心理の特徴を中心に学習してください。特に、青年期の発達課題、欲求、防衛機制に関する内容については、この章の中心的な内容であることから、しっかりと理解するよう努めてください。
- ・「個人の尊重と法の支配」では、近代民主政治の目的である基本的人権の保障を実現するための政治原理である国民主権、法の支配、権力分立、さらに世界の政治体制について学習していきます。現在の政治体制の中で授業で学んだ政治原理がどのような形で生かされているかについて意識しながら理解するようにしてください。

(教科書pp. 35-103、資料集pp. 52-77)

- ・「現代の民主政治と政治参加の意義」では、まず、日本国憲法の制定過程、国民主権、基本的人権の尊重、平和主義の日本国憲法の三大原理について学習しますが、特に憲法との関わりに留意しながら理解するようにしてください。続く、国会、内閣、裁判所の統治機構、地方自治、選挙制度については、将来の主権者としての立場から、政治に関わるための制度、そして、民主的な社会を形成するための今日的な課題を踏まえながら学習するようにしてください。
- ・「国際政治の動向と日本の役割」では、国際司法制度、国際連合の機能と課題、戦後国際政治の変遷、軍縮と核兵器、地域紛争や領土問題について学びます。なかなか馴染みの浅い内容かと思いますが、まず、戦後国際政治の流れを大きくつかむようにしてください。また、現在、国際社会で起きている事柄について関心をもつとともに、グローバル化が進む中で私たちと事柄との関わりや国際社会におけるわが国の役割について考えながら理解するようにしてください。

(教科書pp. 104-145、資料集pp. 78-173)

- ・「現代の経済社会と私たちの生活」では、まず、今日の経済活動を理解するうえで大切な内容である、経済体制、企業活動、市場経済のしくみ、景気と経済成長、金融、財政について学習します。特に、フローとストックの概念、価格機構におけるさまざまな要因による需要曲線、供給曲線の変化、景気を安定させるための金融政策や財政政策については、その概念やメカニズムに留意しながら論理的に理解するよう努めてください。続いて、日本経済の変遷、産業構造の変化、私たちの生活をより豊かにするための問題である労働問題、消費者問題、社会保障問題について学習します。日本経済の変遷については、石油ショック、バブル経済を節目としてどのような変化がもたらされたかについて留意して理解するようにしてください。また、労働問題、消費者問題、社会保障問題については、将来、日常生活の中で直面する可能性の高い問題であるだけに、問題意識をしっかりと理解するようにしてください。

(教科書pp. 146-201、資料集pp. 174-246)

- ・「国際経済の動向と日本の役割」では、貿易活動にともなう国際収支、円高・円安のしくみ、戦後国際経済の変遷、南北問題とそれにとともなう経済援助について学習していきます。国際収支や外国為替についてはその概念とともに、数的な処理ができるよう理解するよう努めてください。

- ・「現代に生きる倫理」では、ギリシア思想、宗教、中国思想などの源流思想について学びます。続いて、私たちの考え方の根底にある、日本古代思想、仏教と儒教の受容、明治以降の西洋思想の受容などの日本思想について学びます。そして、ベーコンの経験論、デカルトの合理論、カントの道徳などの近代以降のヨーロッパの思想について学びます。3年次の「公民総合」との関連から、系統的に学習していく予定にしています。

(教科書pp. 201-254、資料集pp. 247-295)

補注：教科書pp. 6-34については、現代社会の諸問題として夏季休業中の課題の一つとする予定です。適宜、読んでおいてください。

数学Ⅰ・数学A・数学Ⅱ／普通 計6単位

	単元名	学習する内容	時間数
前 期	4月 数学Ⅰ 第1章 数と式	・式の変形、不等式、絶対値、ルートの扱いなど、高校の数学を学習する上でのいわゆる”ツール”を取得します。	15
	5月 数学Ⅰ 第2章 2次関数	・中学校で学んだ一次関数および2乗に比例する数を発展させていきます。グラフから現象を読みとることなど、高校数学の基盤となる分野です。	20
	6月 数学A 第2章 図形の性質 第1回考査	・中学校で得た知識をもとに、三角形や円の基本的な性質を体系的に学習します。さらに、空間における直線や平面についての性質や相互の関係、多面体などに関する基本的な性質を学習します。	20
	7月 数学Ⅰ 第3章 図形と計量	・図形の性質を取り扱う場合に基本になるのが「線分の長さ」、「角の大きさ」です。この2つを結び付けていきます。	25
9月	数学A 第1章 場合の数と確率 第2回考査	・中学校で学んだ「確率」についてより深く学んでいきます。	30
後 期	10月 数学A 第3章 整数の性質	・普段何気なく使っている自然数や整数は、一見簡単に見えながら、背景には神秘的な世界が広がっています。その世界を体感してください。	15
	11月 数学Ⅰ 第4章 データの分析	・「平均」以外に様々な指標を使って、データを分析していきます。	8
	12月 第3回考査 数学Ⅱ 第1章 式と証明	・3次式の展開・因数分解、整式の除法、分数式の四則計算を学び、有理式の計算が自由自在にできる力を身につけます。	12
	1月 数学Ⅱ 第2章 複素数と方程式	・「たして10、かけて40となる2つの数がある。この2つの数はそれぞれいくつか」ここでは新しい数である「虚数」を学びます。	12
	2月 数学Ⅱ 第3章 図形と方程式	・図形を座標平面上におき、図形の性質を方程式や不等式を使って調べていきます。	20
	3月 数学Ⅱ 第4章 三角関数 第4回考査	・数学Ⅰ「三角比」をさらに発展させていきます。「弧度法」という新しい角の測り方も登場します。	20

(注) 詳細は、別途プリントを参考にすること。

数学 I / 創造表現コース 4 単位

		単元名	学習する内容	時間数
前 期	4月	第1章 数と式	この章では、式の計算・因数分解・不等式・絶対値・ルートの扱いなど、高校の数学を学習する上でのいわゆる”ツール”を取得します。 また、集合と命題では、論理の組み立て方を学び、相手を納得させるための共通の「言葉」で説明する力を身につけます。 中学校で学んだ一次関数および2乗に比例する数を発展させていきます。グラフから現象を読みとることなど、高校数学の基盤となる分野です。	30
	5月			
	6月	第2章 2次関数		10
	7月			
9月	第1回考査 *課題学習	第2章 2次関数 第3章 図形と計量	32	
	第2回考査 *課題学習			
後 期	10月	第3章 図形と計量	中学校で学んだ資料の整理を発展させていきます。目的に応じデータを収集・整理し、データの傾向を的確に把握したり、データ間の相関を的確にとらえたりできるようにします。	32
	11月	第4章 データの分析		
	12月	第3回考査		
	1月	問題演習	数学 I の内容を総復習します。	20
3月	2月	第4回考査		16
	3月			

物理基礎／普通 2 単位

		単元名	学習する内容	時間数		
前 期	4月	1 編 物体の運動とエネルギー 1. 速度・加速度	1. 変位や速度など運動の表し方 合成速度や相対速度 2. 加速度と物体の運動	9		
	5月				2. さまざまな力とそのはたらき	1. 物体にはたらくさまざまな力 力のつり合い 力の合成や分解 ベクトル表示 2. 慣性の法則 運動の法則 作用反作用の法則 物体の落下の運動 (水平投射、斜方投射) 3. さまざまな運動とはたらく力 抗力 摩擦力 圧力 浮力 抵抗力 力の図示と運動方程式の扱い方
	6月	第 1 回定期考査	計 18			
	7月	3. 力学的エネルギー	1. 仕事とエネルギー 仕事の原理と仕事率 2. 位置エネルギーと運動エネルギー 3. 力学的エネルギーとその保存 力学的エネルギーの法則	1 3		
	8月				2 編 さまざまな物理現象とエネルギー	3
	9月					
後 期	10月	5. 波	2. 熱の利用 仕事と熱の変換 内部エネルギー 熱力学第 1 法則 熱機関とその熱効率 1. 波の基本的な性質 波の波長 振動数 周期 横波と縦波 波の独立性 重ね合わせの原理 干渉 定常波 反射 2. 音波と振動 発音体の振動 音の反射と干渉 うなり 固有振動 共振・共鳴	6 1 0 計 16		
	11月				第 3 回定期考査	
	12月	6. 電気と磁気	1. 電流と電気抵抗 電流 電圧 電気抵抗 オームの法則 抵抗率 抵抗の接続 電気とエネルギー 2. 電流と磁界 磁界と磁力線 電流による磁界 電磁力 モーターの原理 電磁誘導 発電機の原理 3. 交流と電磁波 交流と直流 変圧器 電力の輸送 交流から直流へ 電磁波の正体と利用	1 1		
	1月				第 4 回定期考査	
	2月	7. エネルギーとその利用	1. さまざまなエネルギー エネルギーの種類 エネルギー変換と保存 2. エネルギーの利用 電気エネルギー 化学燃料エネルギー 原子力エネルギー 再生可能エネルギー	6 3		
	3月				8. 物理が拓く世界 第 4 回定期考査	計 20
			1. 日常生活と科学技術			

学 習 の 目 標	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・実験やグラフの利用により、変位や速度などの物体の運動の基本的な表し方について理解する。 ・物体の合成速度や相対速度を理解する。 ・加速度を理解し、グラフや式を使って物体の運動を分析できるようにする。 ・鉛直の落下運動、水平投射、斜方投射を学習する。 ・物体にはたらく様々な力をベクトルで表す方法を身につける。さらに、力の合成と分解の仕方、つり合いの条件を学習する。 ・運動の3法則を理解する。さらにこれらを利用し、力と運動との関係が分析できるようにする。 	<p>詳しい問題指定は授業で指示します 「物理基礎」問題集の指定ページ p. 7～p. 14 p. 16～p. 23</p> <p style="text-align: center;">第1回課題テスト</p> <p>p. 26～p. 32 p. 36～p. 41 p. 46～p. 57</p> <p style="text-align: center;">第1回定期考査</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギーの尺度となる仕事の定義、仕事率及び仕事の原理について理解する。 ・位置エネルギーと運動エネルギーを理解する。 ・力学的エネルギー保存則とその利用について、仕事と関連付けて理解を深め、この法則を用いているいろいろな運動を分析できるようにする。 ・ブラウン運動から熱運動や温度の関係を理解する。 ・ミクロな立場から、物質の三態、絶対温度、潜熱を理解する。 ・仕事と熱の変換、内部エネルギー、及び熱力学第1法則について学び、熱現象とエネルギーの関係について理解する。 	<p>p. 61～p. 69</p> <p style="text-align: center;">第2回課題テスト</p> <p>p. 73～p. 79</p> <p style="text-align: center;">第2回定期考査</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・熱機関とその熱効率、及び熱現象の不可逆性について学び、エネルギーの有効利用についての理解を深める。 ・波の基本的な性質を理解し、波の波長、振動数、波の伝わる速さなどを量的に扱えるようになる。 ・縦波と横波の違いを理解する。 ・波の独立性、重ね合わせの原理、反射について観察から学び、定常波ができるしくみについて理解する。 ・音の性質として、うなり、固有振動、共振、共鳴などを学び、身近な楽器の原理について理解する。 	<p>p. 83～p. 89 p. 92～p. 99</p> <p style="text-align: center;">第3回定期考査</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・電気実験を通して、抵抗率で物質の分類ができることを理解する。また、合成抵抗を求めることを学習する。 ・電力と電力量を計算で求められるようにする。 ・右ねじの法則から、電流のつくる磁界を理解する。 ・電磁力を学習し、モーターの原理を理解する。さらに、モーターと発電機についてエネルギー変換の立場から理解する。 ・交流と直流の違いを理解し、送電について学習する。 ・電磁波について学び、その利用について学習する。 ・人類が利用可能な様々なエネルギーの特性や利用について、物理的な視点から理解する。 ・原子力について学習し利点やリスクについて理解する。 ・放射能の種類と特性、生物への影響などを理解し、その対処法について学習する。 ・様々な物理現象とエネルギーについての学習を通して、理解を深めるとともに、物理学的な能力を身につける。 	<p>p. 103～p. 109 p. 113～p. 115 p. 118～p. 119</p> <p style="text-align: center;">第4回定期考査</p>

生物基礎／普通 2単位

		単元名	学習する内容	時間数
前	4月	オリエンテーション	実験：顕微鏡の扱い方 (マイクロメーターの扱い方) ・現在の生物の共通祖先のについて学習する。 ・生物は、共通祖先から進化し、環境に適応した多様な生物群となったことを理解する。 ・生物を形づくる細胞について学習する。 観察：アオミドロの観察と体積の測定 原形質流動の観察 原核細胞と真核細胞の観察	18
	5月	1. 生物の多様性と共通性 ① 生物の多様性 ② 生物の共通性と多様性の起源		
	6月	③ 生物の特性 ④ 細胞の多様性 第1回考査		
期	7月	2. 細胞とエネルギー ① 代謝とATP ② 光合成 ③ 呼吸	・代謝、同化、異化、ATPについて学習する。 ・光合成について学習する。 ・呼吸について学習する。 ・共生説を理解する。 ・遺伝子の本体について学習する。 実験：DNAの抽出 ・細胞分裂について学習する。 ・分裂期の染色体やDNAの動きを学習する。 観察：細胞周期の観察 ・タンパク質について学習する。 ・酵素について学習する。 ・DNAの遺伝情報の翻訳の流れを学習する。 ・ゲノムの概念について学習する。 ・遺伝子の発現について学習する。 実験：酵素カタラーゼの働き 実験：DNAの抽出	16
	9月	3. 遺伝現象と遺伝子 ① 遺伝子の本体-DNA ② DNAの構造		
	10月	4. 遺伝情報の複製と分配 ① 細胞周期 5. 遺伝情報とタンパク質の合成 ① タンパク質 ② タンパク質の合成 ③ 遺伝子とゲノム ④ 細胞内での遺伝子の発現 第2回考査		
後	11月	6. 体液とその働き ① 体内環境と恒常性 ② 体液と物質の輸送 ③ 肝臓の働き ④ 体液の濃度調節 第3回考査	・生物の恒常性について学習する。 ・体液の種類とその関係について学習する。 ・酸素解離曲線について学習する。 ・肝臓の構造や働きについて学習する。 ・生物の浸透圧調節について学習する。 観察：血球の観察	16
	12月	7. 生体防御 ① 皮膚などの役割 ② 免疫 ③ 免疫に関する疾患 ④ 免疫と医療		
	1月	8. 体内環境の維持 ① 自律神経系やホルモンによる調節 ② 血糖量・体温の調節		
期	2月	9. 生物の多様性とバイオーム 10. バイオームの形成過程 ① 植生の成り立ち ② さまざまな植生 ③ 植生の遷移 第4回考査	・皮膚などの役割を学習する。 ・免疫は自然免疫と獲得免疫に大別され、多くの種類の免疫担当細胞があることを学習する。 ・二次応答の起こるしくみを学習する。 ・免疫疾患と医療の関わりについて学習する。 ・自律神経やホルモンについて学習する。 ・血糖量や体温調節について学習する。 実験：運動による心臓の拍動数の変化・環境要因について学習する。 ・バイオームの概念について学習する。 ・環境要因について学習する。 ・バイオームの概念について学習する。 ・森林の階層構造について学習する。 ・光の強さと光合成速度の関係を学習する。 ・陽樹、陰樹、陽葉、陰葉について学習する。 ・乾性遷移や二次遷移について学習する。	20
	3月			

教 材 等	
教科書	資料集の活用（7ページ） セミナー生物基礎（問題集）の活用 資料集の活用（7～8ページ） セミナー生物基礎（問題集）の活用 資料集の活用（20～42ページ） 資料集の活用（44～66ページ） 資料集の活用（114～140ページ） セミナー生物基礎（問題集）の活用
教科書	資料集の活用（44～49ページ） 資料集の活用（50～63ページ） セミナー生物基礎（問題集）の活用 資料集の活用（68～69ページ） セミナー生物基礎（問題集）の活用 資料集の活用（72～75ページ） 資料集の活用（76～83ページ） 資料集の活用（84～93ページ） 資料集の活用（94～103ページ） セミナー生物基礎（問題集）の活用
教科書	資料集の活用（114～117ページ） 資料集の活用（116～117ページ） 資料集の活用（118～119ページ） 資料集の活用（120～122ページ） セミナー生物基礎（問題集）の活用
教科書	資料集の活用（124ページ） セミナー生物基礎（問題集）の活用 資料集の活用（124～128ページ） セミナー生物基礎（問題集）の活用 資料集の活用（130～133ページ） セミナー生物基礎（問題集）の活用 資料集の活用（134～144ページ） セミナー生物基礎（問題集）の活用 資料集の活用（240～241ページ） 資料集の活用（242～249ページ） セミナー生物基礎（問題集）の活用

科学と人間生活／創造表現コース 2単位

		単 元 名	教 材 名	時間数
前	4月	科学技術の発展	科学技術の発展 教 p 3～ 12	1 8
	5月	微生物とその利用	微生物の存在 教 p 38～ 45	
			生態系における微生物 教 p 46～ 49	
6月	第1回考査	微生物と人間生活 教 p 50～ 59 まとめの問題 教 p 60		
期	7月	食品と衣料	食品の科学 教 p 62～ 74	1 8
	8月	第2回考査	衣料の科学 教 p 75～ 84	
	9月		まとめの問題 教 p 84～ 85	
後	10月	光の性質とその利用	光とは何か 教 p 110～118	1 6
	11月	第3回考査	光の性質 教 p 119～129	
			電磁波とその利用 教 p 130～132	
12月		まとめの問題 教 p 133		
期	1月	自然景観と自然災害	地震による景観と災害 教 p 172～181	1 8
	2月	第4回定期考査	火山の景観と災害 教 p 182～187	
			流水の作用による景観と災害 教 p 188～191	
3月		まとめの問題 教 p 192		

		副教材（試験範囲）
前	4月	○教科書と科学と人間生活の学習ノートを使用 ・科学技術の進歩・発展を、情報通信生活を例にして、人間生活に果たしてきた役割を理解する。 ・様々な微生物の存在、生態系における微生物のはたらき、微生物と人間生について学び、微生物が生態系や人間生活にどのように関わっているかを理解する。 第1回考査（教p3～p12、p38～p60）→ 科学技術と生物学的分野
	5月	
	6月	
期	7月	○教科書と科学と人間生活の学習ノートを使用 ・食品・衣料・染料・洗剤などについて学び、その性質や利用の仕方について化学の観点から理解する。（実験：グルコース・デンプンの性質、アミノ酸の検出、タンパク質の性質など） 第2回考査（教p62～p85）→ 化学的分野
	8月	
	9月	
後	10月	○教科書と科学と人間生活の学習ノートを使用 ・光の反射や屈折、分散といった性質とその利用、可視光線のスペクトルによる分類や波長による色の違いや電磁波について学び、その種類などについて理解する。 第3回考査（教p110～p133）→ 物理学的分野
	11月	
	12月	
期	1月	○教科書と科学と人間生活の学習ノートを使用 ・私たちの周囲に見られる様々な地形がどのようにしてできたのか、また、その景観を育む自然が引き起こす災害について学ぶ。 ・これからの科学と人間生活に関して、主体的な課題研究の進め方について理解する。 第4回考査（教p172～p192）→ 地学的分野
	2月	
	3月	

体育／普通・創造表現コース 3単位

		単元名	学習する内容	時間数
前	4月	オリエンテーション 体育理論 集団行動 行進練習 ラジオ体操	体力トレーニング（年間） 体ほぐし・体づくり運動 種目を取り入れた体づくり （例：バレー・サッカー） 集団行動・行進練習・ラジオ体操第2	30
	5月	男子 ハードル 女子 マット運動	〈陸上競技：ハードル〉 グランド 基礎練習・記録会 〈器械運動：マット運動〉 体育館 基礎練習・種目練習・種目発表会 （記録ノート）	
	6月			
期	7月	男子 マット運動	〈器械運動：マット運動〉 体育館 基礎練習・種目練習・種目発表会 （記録ノート）	24
	8月	女子 ダンス	〈ダンス〉 体育館、格技館、講堂 基礎練習・グループ学習	
	9月	体育大会練習 体育大会	〈体育大会の練習〉 グランド ラジオ体操・集団種目・出場種目 出場種目・リレー等	
		男子 バレー	〈球技：バレーボール〉 バレーコート 基礎練習（パス・サーブ・スパイク） グループ学習・ゲーム	
		女子 ダンス ハードル	〈陸上競技：ハードル〉 グランド 基礎練習・記録会	
後	10月	男子 バレー 女子 ハードル	〈武道：剣道〉 格技館 基本練習・試合形式 〈球技：バレーボール〉 バレーコート 基礎練習（パス・サーブ・スパイク等） グループ学習・ゲーム	24
	11月	男子 剣道		
		女子 バレー		
	12月	体育理論	体育に関連する理論 など	
期	1月	持久走 （マラソン大会の練習）	〈陸上競技：持久走〉 グランド・ ペース走・時間走	27
	2月	【マラソン大会】		
	3月	男子 サッカー 女子 体ほぐし	〈球技：サッカー〉 グランド 基礎練習・ゲーム 〈なわとび〉 グランド 種目練習	

保健／普通・創造表現コース 1単位

		単元名	学習する内容	時間数
前	4月	現代社会と健康 《第1回考査》	P 38～54 (17)	10
	5月		15. 欲求と適応機制	
	6月		16. 心身の相関とストレス 17. ストレスへの対処 18. 心の健康と自己実現 19. 交通事故の現状と要因 20. 交通社会における運転者の資質と責任 21. 安全な交通社会づくり	
期	7月	《第2回考査》	P 56～62 (7)	8
	8月		22. 応急手当の意義とその基本 23. 心肺蘇生法 (実習を含む)	
	9月		24. 日常的な応急手当	
後	10月	《第3回考査》	P 6～21 (16)	8
	11月		1. 私たちの健康のすがた 2. 健康のとらえ方 3. 健康と意思決定・行動選択 4. 健康に関する環境づくり 5. 生活習慣病とその予防 6. 食事と健康 7. 運動と健康	
期	12月	《第4回考査》	P 22～37 (16)	9
	1月		8. 休養・睡眠と健康 9. 喫煙と健康 10. 飲酒と健康 11. 薬物乱用と健康	
	2月		12. 現代の感染症 13. 感染症の予防	
	3月		14. 性感染症・エイズとその予防	

音楽Ⅰ／普通・選択 2単位

		単元名	学習する内容	時間数
前 期	4月	「歌唱に楽しむ」	「校歌」、歌唱（独唱）練習	4
		「西洋音楽史1」	音楽史（音楽の起源）	4
			音楽史（中世・ルネサンス）	4
	5月	「混声合唱1」		3
		「混声合唱2」		3
	6月	第1回考査		
		「西洋音楽史2」	音楽史（バロック）	3
		「混声合唱2」	混声合唱の練習	3
	7月	「西洋音楽史3」	音楽史（古典派）	3
		「音楽の理論を学ぶ」	音楽の基礎の学習	3
9月	「西洋音楽史4」	音楽史（ロマン派）／オペラ・ミュージカル	4	
	第2回考査			
後 期	10月	「日本音楽を学ぶ」	歴史	3
			楽器について	3
			篠笛について（実技を含む）	3
	11月		日本の旋律を創作する	3
			創作の発表、合唱コンクール練習	2
	12月	第3回考査		2
		「旋律の創作」	創作について	2
	1月		旋律の創作	2
		「ギターに親しむ」	ギター（旋律）	3
			コード（弾き語り）	3
2月				
	「グループによる演奏・発表」	編曲と演奏	10	
3月	第4回考査			

美術 I / 普通・選択 2 単位

		単元名	学習内容	時間
前 期	4月	鑑賞 (デッサン)	西洋の美術について学ぶ ・古代から近代の美術を学ぶ	8
	5月	陶芸実習 I	焼き物の技法と表現の基礎を学ぶ ・手練り、紐造り	8
	6月		・粘土の性質、釉薬の性質 ・用具の扱い方	
	7月	自画像 (デッサン)	観察力を養い、形体への理解を深める ・形体、構成などの表現について学ぶ	14
	8月	油彩実習 (鑑賞を含む)	油絵の素材への理解と技法及び表現について学ぶ ・油彩による立体表現及び質感表現について ・名画の模写をすることで絵画の魅力を探る	16
後 期	9月			
	10月			
	11月			
	12月	陶芸実習 II	焼き物の技法と表現の基礎を学ぶ ・粘土の性質、釉薬の性質 ・用具の扱い方	8
	1月	油彩実習 (静物)	油絵の素材への理解と技法及び表現について学ぶ ・油彩による立体表現及び質感表現について ・静物画の表現について	16
2月				
3月				

書道 I / 普通・選択 2 単位

		単元名	学習する内容	時間数
前 期	4月	書道について	高等学校では国語ではなく、書道という芸術の教科として学習する。実技力の向上は勿論、鑑賞力を養うことが重要である。	2
	5月	用具用材について 楷書の基本	文房四宝（筆墨紙硯）について学ぶ。 楷書の基本点画 起筆・送筆・収筆・はね・はらい・点折・点を学ぶ。 （一字書、二字書の練習）	2
		篆書の基本 隷書の基本	篆書や隷書の基本的な書き方を学び、書体の変遷について理解する	2
	6月	古典(楷書)の学習	六朝時代・唐時代の楷書について古典の特徴や背景を学び、それぞれの表現の違いを理解し臨書する。	8
		半切1/2作品の制作	楷書の古典より各自の選択した課題を臨書し、作品として仕上げる。	4
		7月	篆刻	篆書の基本的な技法を用い、落款印を作る。
	8月	仮名の学習①	平仮名と変体仮名の書き方について理解する。	4
	9月	行書の基本	行書の基本点画 用筆の特徴、字形の変化、線の太細の変化、筆順の変化を学ぶ。（一字書、二字書の練習）	2
後 期	10月	古典(行書)の学習	行書の代表的な古典（時代・筆者・背景）を学び、表現力と鑑賞力を養う。	6
	11月	芳名「発展的な学習」	書道字典の使い方を理解するとともに、自分の筆書きサインを作る。	4
	12月	硬筆（実用書）①	縦書き横書き文章・はがきの表書き・掲示文など日常生活で必要となる硬筆の練習	2
		作品創作	学んできた表現技法をもとに、創作作品を完成させる。	10
	1月	仮名の学習② 古筆鑑賞	連綿技法を学ぶ。 仮名の古典を鑑賞・臨書することで、日本固有の文化である「仮名」について理解を深める。	4
	2月	短冊作品の制作	短冊の書き方について理解し、仮名の表現技法を実践する。	4
	3月	硬筆（実用書）②		2
		漢字仮名交じり書	漢字古典を基に短い詩文を作品にする。 * 作品にする言葉や詩文を各自が選定する。	4

コミュニケーション英語 I / 普通・創造表現コース 4 単位

		単元名	学習する内容	時間数
前	4月	Lesson 1	Rise and Shine! – Breakfasts around the World 文構造 / 動名詞 / to 不定詞	35
	5月	Lesson 2	Nothing but Love to You, Chirori 分詞の形容詞用法(後置修飾) / 受け身 / 現在完了形	
	6月	Lesson 3 第1回考査	You're Smarter than You Think S+V+O(O=what など)で始まる節) / 関係代名詞 / S+V+O ₁ +O ₂ (O ₂ =how(など)+to 不定詞)	
期	7月	Lesson 4	The Century of Water 節を指す形式主語の it / 現在完了進行形 / 助動詞	35
	8月	Lesson 5	Teammates 過去完了形, S+V+O+C(C=動詞の原形), S+V+O(O=if または whether で始まる節)	
	9月			
後	10月	Lesson 6	A Japanese Who Changed World Art 句を指す形式目的語の it, 関係代名詞の非制限用法, 未来完了形	35
	11月	Lesson 7	Making the Right Choices through Fair Trade 関係代名詞 what, S+V+O ₁ +O ₂ (O ₂ =thatで始まる節), 仮定法過去	
	12月	Lesson 8 第3回考査	The Sea Is Longing for the Forest 関係副詞, S+V+O+C(C=現在分詞), 仮定法過去完了	
期	1月	Lesson 9	<i>Origami</i> : Taking Us to Outer Space 分詞構文①, S+V+O ₁ +O ₂ (O ₂ =what など)で始まる節), seem などの動詞	35
	2月	Lesson 10	The Last Lecture S+V+O ₁ +O ₂ (O ₂ =if または whether で始まる節), 分詞構文②(完了形), 強調構文	
	3月			

*ティーム・ティーチングの授業と副教材については最初の授業で指示します。

英語表現 I / 普通・創造表現コース 2 単位

		単元名	学習する内容	時間数
前 期	4月	Lesson 1	My Father Works in Yokohama (現在形と現在進行形) I Went Shopping on Saturday (過去形と過去進行形) We're All Going to the Movies Tonight (未来・予定)	20
	5月 6月	～ Lesson 6 第1回考査	I've Never Broken a Bone Before. (現在完了形) The Train Had Just Left When We Got There (過去完了形) Can You Stand on Your Head? (能力・可能を表す表現)	
前 期	7月	Lesson 7	May I Have Another Chocolate? (許可・依頼・提案の表現)	16
	8月 9月	～ Lesson 12 第2回考査	You Have to Get Up Early. (義務・命令・助言の表現) There Must Be Over 1,000 People in Here. (可能性・推量の表現) I May Have Left My Umbrella on the Train. (実現しなかった過去を表す表現) It Was Torn Down Last Year. (受動態の基本) It'll Be Repaired Soon. (いろいろな受動態)	
後 期	10月	Lesson 13	I Have Too Much Homework to Do. (不定詞の基本) Let Me Have a Look. (いろいろな不定詞)	16
	11月 12月	～ Lesson 19 第3回考査	I Like Singing Karaoke. (動名詞) I Felt My Palms Sweating (現在分詞と過去分詞) Yoko Looks Beautiful Wearing a Kimono. (分詞構文) Just Play It As Fast As You Can. (原級を用いた比較) Which Is the Best of These DVDs? (比較級・最上級)	
後 期	1月 2月 3月	Lesson 20 ～ Lesson 24 第4回考査	Who's the Guy Who spoke to You? (関係詞1) Where's the CD I Lent You Last Week? (関係詞2) This Is the Hospital Where I was Born. (関係副詞) What Would You Do If You Won the Lottery? (仮定法1) If You'd Come, You Could Have Met My Girlfriend. (仮定法過去完了)	18

*副教材については最初の授業で指示をします。

家庭基礎 / 普通・創造表現コース 2 単位

		単元名	学習する内容	時間数
前 期	4月	家庭基礎の学び方 第1章 自分らしい人生をつくる	家庭基礎について（何を学ぶか、学習状況調査等） 発達段階と生活課題 家族と家族法 男女共同参画社会	18
	5月	第8章 経済生活を営む	家計 契約と消費者信用 消費生活と環境（グリーンコンシューマー）	
	6月	(第5章 食生活をつくる) 第1回考査	食事摂取基準と食品群別摂取量のめやす 食中毒予防（VTR）・調理教室の使い方「第1回調理実習」	
	7月	第2章 子どもと共に育つ	調理実技テスト（実習「第2回調理実習」） 子どもの成長・発達（VTR・離乳食の試食） 親になること、子育て支援 子どもの権利と福祉 実習「基町幼稚園実習」	
(8月)	ホームプロジェクト (学習から実践へ)	・「オリジナル新聞の制作」 ・「ボランティア活動（福祉施設等）」 ・「ホームプロジェクトの実施」 等		
9月	第6章 衣生活をつくる	ホームプロジェクトの発表 被服実習「小物製作」		
後 期	10月		作品のプレゼンと相互評価 被服実技テスト（基礎縫い） 被服の機能・制服の表示調べ・被服管理（VTR）・衣生活と資源・環境	16
	11月	第5章 食生活をつくる	食生活診断 栄養素とそれを多く含む食品 実習「第3回調理実習」	
	12月		「第4回調理実習」	
	1月		実習「第5回調理実習」 食品添加物・表示の見方、食料自給率問題 食生活と環境	20
2月	第3章 高齢社会を生きる 第4章 共に生き、共に支える	高齢者を知る（VTR・シニア体験） 介護と高齢者への支援（ノーマライゼーション） 生活と福祉・社会保障制度		
	第7章 住生活をつくる	住居の機能と間取り、住まいの健康と安全、環境に配慮した住まい 実習「一人暮らしの住居設計」 自己評価、まとめと考察		
3月	第9章 生活を設計する 第4回考査	自分らしい生き方の選択と生活設計		

到達目標	発展学習
<ul style="list-style-type: none"> ・家庭科を学ぶ目的、何を学習するかを理解する。 ・ライフステージの特徴と課題を理解する。 ・家族・家庭の意義と基礎的な法律を理解する。 ・男女が相互に協力して家庭を築くことの必要性を認識する。 ・経済的自立と職業について主体的に考える必要性を認識する ・契約や消費者信用、多重債務と関連する法律や制度を理解し、自立した消費者として適切に判断できるようにする。 ・現代の経済環境と、消費者の権利と責任について理解し、資源や環境に配慮できる消費者として行動できるようにする。 ・栄養、食品、調理、食品衛生などに関する知識と技術を習得し、食生活を健康で安全に営むことができるようにする。 ・自分の食事摂取基準や食品群別摂取量の目安量がわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭生活に関連する新聞記事を読もう。 ・家族に関する民法について調べてみよう。 ・少子高齢化について調べてみよう。 ・高校生活や大学生活に必要な費用を調べてみよう。 ・資源、環境に配慮した製品や付けられているマークについて調べてみよう。 ・現代の消費社会の課題について、新聞記事や消費生活センターなどの施設を利用し、最近の事例をもとに調べてみよう。
<ul style="list-style-type: none"> ・安全で衛生的な、調理の基礎技術を身につける。 ・子どもの健全な発達のために、親や家族及び社会の果たす役割が重要であることを理解する。 ・子どもを産み育てることの意義を認識する。 ・生活の中から課題を見だし、その解決方法を考え、計画を立てて実践できるようにする。 ・被服の機能と着装、被服材料、被服管理などに関する知識と技術を習得し、衣生活を健康で快適に営むことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分や家族の食事を作ろう。 ・地域の福祉施設や専門機関について調査研究してみよう。 ・地域の一員として、今の自分にできることから子どもと関わってみよう。 ・高齢者福祉施設や保育所などを訪問して高齢者や乳幼児と交流しよう。 ・自分に必要なものを製作しよう。
<ul style="list-style-type: none"> ・主な食品の栄養的特質と調理上の性質を理解し、栄養的にバランスのとれた食事について、日常の食事と日本型食生活を関連付けて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パーソナルカラーを見つけよう。 ・衣生活と環境について自分の考えをまとめよう。 ・自分の食生活の問題点を見つけ、改善方法を考えて実践しよう。 ・栄養バランスを考えた食事を作ろう。
<ul style="list-style-type: none"> ・食品表示の見方、食品の選び方を理解する。 ・高齢者の心身の特徴と、高齢者の福祉について理解する。 ・高齢者の自立生活を支えるために必要な家族や地域・社会の果たす役割について認識する。 ・一生を通じた福祉や社会的支援の必要性を知り、社会保障制度の理念を理解する。 ・住居の機能、住空間の計画、住環境の整備などについて科学的に理解し、住生活を健康で快適に営むことができるようにする。 ・高校生としての発達課題やこれからの生き方について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遺伝子組み換え食品や輸入食品の安全性について調べてみよう。 ・日本の食料自給率とその問題点について調べてみよう ・高齢社会の課題について考えてみよう。 ・シニアへの支援について今の自分にできることから実践してみよう。 ・ユニバーサルデザインやバリアフリーを搜してみよう。 ・ボランティア活動に参加してみよう。 ・これからのライフステージと住居についてさらに研究してみよう。 ・気候、風土と住まいの工夫について調べてみよう。 ・これからの自分の生き方について生涯発達の視点で考えをまとめてみよう。 ・職業について調べてみよう。

素描Ⅰ／創造表現コース 2単位

		単元名	学習内容	時間
前 期	4月	表現素材と用具	様々な表現素材と用具について理解する。 ・表現材料の種類と特性について ・表現に応じた用具の選択と応用について	4
	5月	素描実習Ⅰ(静物)	静物の観察とその表現力の養成 ・鉛筆など描画用具の使い方 ・デッサンの心構えについて ・基本形態の観察と表現 ・明暗表現による立体感の感じ方	1 6
	6月			
	7月			
	8月			
	9月			
後 期	10月	素描実習Ⅱ(手)	人体の観察とその表現力の養成 ・手の動きや表情を観察し表現する ・バランスや比率について認識する	1 5
	11月	素描実習Ⅲ(人物)	人物の観察とその表現力の養成 ・人物の動きや存在感を表現する ・バランスや比率について認識する	1 7
	12月			
	1月			
期	1月	素描実習Ⅳ(石膏像)	木炭による素描の基礎と表現方法について理解する ・石膏デッサンをする理由について ・木炭の扱い方を理解する ・木炭による明度段階の練習 ・基本的形態の表現方法 ・形をとるとき基本的な方法と表現について	1 8
	2月			
	3月			

美術 I / 創造表現コース 2 単位

		単元名	学習内容	時間
前 期	4月	遠近法について	遠近法について理解する。 ・空気遠近法について ・線遠近法とその応用について	4
	5月	陶芸基礎・実習	紐作りによる湯呑みの制作 ・紐作りの特性と技法	1 6
	6月	静物画(水彩)	不透明水彩による水彩画技法と表現の学習 ・静物画の構図のとり方や着彩の方法を学ぶ ・色の組み合わせによる表現効果の違いを学ぶ	1 5
	7月			
	8月			
9月				
後 期	10月	平面構成	平面表現の基本を学習する ・アクリルガッシュの特性と扱い方 ・モチーフの特質と描写（色彩・形体・材質） ・構成による視覚効果（リズム・バランス） ・画面構成の工夫（造形・配色） （用紙／B3パネル）	1 6
	11月	鑑賞		
	12月	美術史	西洋の美術の流れを学習 ・古代から近代への大きな動きを学ぶ	7
	1月	立体構成	立体構成の基本を学習する ・各種立体構成について ・ペーパークラフトの特徴 ・多面体の制作 ・感情を形にする ・造形の効果と構成の工夫	1 2
	2月			
3月	鑑賞			

美術基礎／創造表現コース 2単位

		単元名	学習内容	時間
前	4月	色彩学	色の成り立ちについて学習する ・色の三要素(明度、彩度、色相) ・科学的に色彩を認識する ・色の見え方や性質について	12
	5月			
期	6月	CG演習	パソコンを使用して色彩の効果について学習する。 ・色の性格を利用した平面構成を行う。	8
	7月			
	8月 9月			
後	10月	水彩画実習(静物)	透明水彩による水彩画技法と表現の学習 ・絵の具の種類と用法について学習する。 ・静物画の構図のとり方や着彩の方法を学ぶ ・色の組み合わせによる表現効果の違いを学ぶ	17
	11月			
	12月			
	1月			
期	2月	油彩画実習	油絵の基礎技法について学習する ・自己を見つめ内面の感情を表現する ・人物表現の基本を学習する ・人体の比率やバランスの取り方 ・質感表現について ・表情やポーズのとり方による感情表現 ・色彩やタッチによる感情表現 ・絵の具の種類と用法について学習する。 ・構図のとり方や着彩の方法を学ぶ ・色の組み合わせによる表現効果の違いを学ぶ	18
	3月			
	鑑賞			

学習ガイダンス2014（1年）

発行日 平成26年4月

発行 広島市立基町高等学校

〒730-0005 広島市中区西白島町2-5-1

TEL (082)221-1510 FAX (082)221-5299

URL <http://www.motomachi-h.edu.city.hiroshima.jp/>

印刷所 鯉城印刷株式会社

表紙 3年10組 藤井 麻由美